

成田山新勝寺

成田山新勝寺は、1000 年以上の歴史を持つ「真言密教」の大本山である。真言宗は、日本で最も主要な仏教宗派のひとつで、9 世紀に高僧・空海(弘法大師)によって中国から日本に伝わった。儀式や瞑想を通して、生涯をかけて悟りを開くことができると考える、難解な仏教宗派である。1,000 万人もの参拝客が毎年訪れ、220,000 平方メートルの境内面積を誇る本寺は、東日本で最も人気があり広い寺の一つである。新勝寺の建物のうち、2 つの旧本堂や三重塔など五つが重要文化財に指定されている。大本堂にある、強い慈悲を持つことで知られる「不動明王」像も重要文化財に指定されている。

※「成田山」とは、新勝寺の「山号」である。日本の仏教寺院は、山に建立されることが多かったため、寺院名の前に立地となる山の名前を冠されることがある。